

野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1
TEL/FAX 029-853-6339
URL <http://yagai.tsukubauniv.jp>

写真：「白馬の朝」吉沢撮影



【巻頭言】

野外研1年目を終えて思うこと

新井洸真(MC1)

今回、巻頭言を担当する大学院1年目をまもなく終えようとしている新井洸真と申します。OB・OGの方々の中には、はじめましての人が多いと思います。簡単に自己紹介をさせていただくと、出身は長野県の小谷村で、自然豊かな環境で育ちました。学部時代は、東京学芸大学で学んでいましたが、野外教育を専門的に学びたいと思い、今年度から伝統のある筑波大学の野外運動研究室でお世話になることとなりました。

東京学芸大学時代に何を学んでいたのかと聞きますと、「教育学を中心に据えながらも、哲学、社会学、経済学などのものの見方にも触れ、今の社会の中での教育を多面的にとらえなおそう」というようなゼミ活動をしていました。このことは、自分が自然体験活動や野外教育について考えるうえでも、ベースとなっていて、「野外教育のこの部分ちょっと変だよ」とか、「組織キャンプで当たり前とされているこの教育的価値って疑ってみる必要もあるよね」といった切り口から議論を始めることが多々あります。そのため、世界観がすごいということで、いつしかキャンプネームが「うちゅう」になっていました。

この「うちゅう」というキャンプネームを実はとても気に入っています。というのも、高度情報化といわれ、多様な価値観も溢れ、とてつもないスピードで変化している社会の中で、自然体験や野外教育の価値を捉えなおしていくには、時には伝統的な野外教育観からすると宇宙に感じられてしまうようなものの見方が必要だと感じているからです。

「体育の世界ではこうだから」「社会で生きていくとはこういうことだから」「今までの野外教育はこうだったから」そういった伝統的な価値観が、これからの社会の中で、自然体験の価値を創造し、提示していくうえで足かせとなってしまうことはないでしょうか。「野外教育」「自然体験」は間違いなくこれからの社会に新しい価値観を提供していく分野だと思います。だからこそ、自分自身は既存の価値観を疑い、新しい価値観を提案していけるような、「うちゅう」人として精進していきたいと思えます。

【研究室近況報告】

○野性の森冷蔵庫搬入について

吉沢直(UG4)



1月12日に野性の森倉庫の冷蔵庫が新しくなりました。大型タイプということで、室員総出で搬入を行いました。今までは、家庭用冷蔵庫を2台使っており、容量・冷蔵能力ともに限界がありましたが、ついに改善されることとなりました。OB・OGの皆さんは容量の問題で困った経験もあるのではないのでしょうか。今後長きにわたり、野性の森での活動を支える装備になってくれそうです。

【正課事業報告】

○平成27年度 卒業研究・修士論文発表会

大友あかね(MC2)

[期日] 2016年1月23日(土)

[場所] 筑波大学体育芸術学群棟 5C216 講義室

☆卒業研究(3題)

大関 久仁：「森のようちえん」活動が幼児の運動能力に与える影響

西島 隆成：スキー・スノーボード滑走時のフロー体験について

吉沢 直：冒険教育としてのソロプログラムの構造

☆修士論文(1題)

大友あかね：長期キャンプにおける課題を抱える児童生徒の本来感に関する研究





多くのOB・OGの皆さん、ご参加ありがとうございました!!

1年間の研究の成果を発表する場である、論文発表会が行われました。当日は、多くの来賓の方々にお越しいただき、題数が少ない分それぞれの発表について活気ある議論が交わされました。発表者としては、野外教育の大先輩方の前で研究を発表することは恥ずかしくもありながら、研究室のすべての先輩方が通った道であると考え、背筋が伸びる思いでした。

その後の懇親会には、先生方、来賓の方々、現室員、そして新専攻生が参加しました。卒業生からの挨拶では言葉に詰まり、いつの間にか研究室が自分にとって大きな存在になっていたことを改めて実感しています。野外運動研究室は、この論文発表会をひとつの大きな節目として、学生が入れ替わり、研究室の新たな一年がスタートします。研究室の温かさに触れるとともに、新しい風を感じた1日となりました。

○野外運動論実習Ⅱ（雪上）

川原田誠(UG3)

[期日] 2015年12月22日～27日

[場所] 長野県上田市菅平

[指導者] 井村、渡邊、坂谷、新井

[参加者] 前川、東野、木持、川原田

私たち専攻生4人は菅平に雪上実習を行ってきました。私たちが予想していたよりもはるかに雪が少なく、スキー場も滑れないコースがたくさんあり、少し残念な実習となりました。初日は雪上運動会を行い、クロスカントリースキーを履いてゲームを行いました。私はその日初めてクロスカントリースキーを履きましたが、想像していたよりも難しく、何度も転んでしまいました。また、学生よりも勝負にこだわり、熱くなっている先生たちがとても印象的でした。2日目からは3日間のスキー講習を行いました。その中で、学生各々が指導案を作成し、模擬授業を行う機会があり、スキーを教える難しさを体感しました。また、スキーにおける指導を映像などを活用しながらいただき、個人それぞれが課題を克服し、技術が上達していきました。

個人別活動は雪不足の影響でクロスカントリースキーからハイキングに変更になりましたが、前日に各々でルートをもう一度考え直し、行いました。地図とコンパスをうまく使えず、正しいルートを通れなかった者や遭難しかけた者など、なかなか思い通りにいかないことが多かったのですが、全員無事に生きて帰ってくることができました。自然をなめてかかるとひどい目にあうことが、身に染みだと思いません。最終日前日の夜には、パーティーを行い、実習の感想を述べあいながら反省をし、ビンゴをして盛り上がりました。野外は予想だにしないことがたくさん起き、常に様々なリスクを伴うことを学びました。しかしそれが野外における楽しさでもあったと感じました。

○実技理論実習Ⅰ「野外運動」：デイキャンプ

東野友哉(UG3)

[期日] 2015年11月18日～19日

[場所] 筑波大学 野性の森

[指導者] 渡邊、新井、大友、大関、東野

[参加者] 体育専門学群2年男子

上記の日程で、体育専門学群3年生の男子のデイキャンプが行われました。各班、雨が降る中でのテント設営や火起こし、夕食づくりに手を焼きながらも授業で学んだことを活かし、班員のみんと協力して活動していました。雨のため、当初予定していたプログラムからの変更はありましたが、参加者は充実した時間を過ごせていたと思います。今回の実習を通して、参加者に価値ある経験をしてもらうには、指導者の十分な準備と柔軟な対応が必要であるということを感じました。



管理棟の中で行ったキャンドルファイアー

○種目別コーチング演習Ⅱ：甲武信岳登山

新井洸真(MC1)

[期日] 2015年11月28日～29日

[場所] 甲武信岳

[指導者] 渡邊、新井

[正課受講生] 小原、竹内(UG2)、

[オプションツアー参加者] 坂谷、藤田、吉沢、飯野(新院生)

体育専門学群の学生を対象とした「種目別コーチング演習Ⅱ」の授業の実習として、甲武信岳への山を実施しました。この山行は、授業の履修生である学生2人と、授業担当の渡邊先生、TAの新井に加え、オプションツアーとして参加した、坂谷先生、藤田、吉沢、飯野（来年度の新院生）の総勢8名で実施されました。計画段階の予想を超える積雪や、つくば出発の遅れ（決して理由は語ることは許されない…）など、朝から晩まで多くのハプニングに恵まれ、話題には事欠かない山行でした。結果、1日目は予定したキャンプ地には到着できず、ビバークをすることにもなりました。

そんな私たちの嵐のような一日とは裏腹に、雪をまとった甲武信岳はどっしりと静かにそこにあり、まるで私たちには無関心のように感じられるのでした。受講生と来年度の新院生の飯野は、初めての本格的な登山であった今回の山行をどのようにとらえてくれたでしょうか？



三宝山山頂にて

【課外事業報告】

○茨城県ジュニア選手育成強化プログラム

大関久仁(UG4)

[期日] 2015年11月14日

[場所] 筑波大学 クラブハウス

[指導者] 渡邊、坂谷、大友、新井、大関、藤田

[参加者] 県強化選手



茨城県のスポーツ強化選手を対象とした ASE 指導を行いました。午前中は中学生、午後は高校生対象の2本立てでの指導でした。

天気はあいにくの雨で、野性の森は使えず、クラブハウスでの指導となりました。各ファシリテーターが工夫して、室内でもできる活動を考え、指導に

あたることができました。

ASE 自体は、実質1時間半程度の活動時間でしたが、選手たちはそれぞれ良い時間を過ごせたようで、普段かかわりのない他競技の選手とも親睦を深めることができましたように思いました。

私個人としては、県のスポーツの将来を担う選手を対象ということで、いつも以上に緊張しました。これからも ASE 指導の経験を積んで、スキルの向上に努めたいと思います。

【個人実践報告】

○ OBS・WMAJ プログラム参加

吉沢直(UG4)

[期日] 2016年1月30日～2月11日

[場所] 長野県小谷村 OBS 長野校及びその周辺

OBS 長野校で行われた「雪上基礎技術トレーニング 5日間(1/30-2/3)」、「Wilderness Advanced First Aid 4日間 略称:Wafa (2/5-2/8)」、「Wafa ブラッシュアップトレーニング 2日間(2/9, 2/10)」に参加してきました。

雪上基礎技術トレーニングでは、初日から雪上キャンプを行い、雪上で活動する注意点や雪の仕組みを学びました。3日目と4日目には、OBS 長野校近くの真那板山へのコンパスワークとルートファインディングを強く意識した登山も行いました。全体を通して、新しく学んだことや再確認できたことが多くありました。その中でも、私が一番参加して大きかったと感じるのは、どのように教えたらいいのかを、実際に冒険教育のプロである OBS インストラクターの教え方から学ぶことができた点だと思っています。今後、自分が指導をしていく立場になっていく中でどのように指導したら、わかりやすく教えることができるのか、大事なことを伝えられるのかを考えさせられました。今後は指導者として、プログラムの参加者たちに、また研究室の後輩たちにも教えていけたらと考えています。



後半の6日間は、WMAJ(Wilderness Medical Associates Japan)による野外救急法を受けました。6日間、朝昼晩みっちり野外救急法の講義を受けることは今までになく、非常に有意義な時間を過ごすことができました。野外に人を連れて行く者として、そこで起きる問題を想定しておくこと、万が一起き

た時に対処する準備をしておくことは改めて大事であり、それは義務なのであるということを確認しました。講習の内容は、座学と実際にフィールドで行うシュミレーションを何セットも繰り返す形式で行いました。また、5日目、6日目に行ったブラッシュアップトレーニングでは、1回2時間にもわたる長時間のシュミレーションを行い、より実践的な内容を行いました。さらに活動中以外の場面でも、様々な形で野外教育、野外運動に関わっている参加者の皆さんから、とても興味深いお話を聞かせてもらえたことがよかったです。



出血者を救うシュミレーションの様子(救助者:吉沢)

私自身、初めてこのような大学外部のプログラムに参加してみて、非常に多くのことを感じる事ができました。今まで大学という枠組みの中で、野外活動を行ってきましたが、それだけが全てではないということにも気づかされました。今後、今まで以上に広い視野を持ちながら指導実践や研究ができるようになっていきたいと思います。

～番外編～

プログラム終了の翌日、我が研究室のOBであり、現在 OBS インストラクターである藤岡良仁さん(よっしー)と、白馬でバックカントリーに行ってきました。最高の天気、パウダーに恵まれて故郷を満喫してきました。藤岡さん本当にありがとうございました!!



○ふゆりん留学報告 帰国編

佐藤冬果(MC2)

2015年10月12日～2016年1月2日、「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」という奨学金の支援を頂き、アメリカのオハイオ州立大学(OSU:The Ohio State University)に行ってきました。振り返ると、授業や学会参加、施設見学などの予定をギュウギュウに詰め込み、あちこち駆け回った3ヵ月間でした。文章にしたらとても長くなってしまったので、箇条書きで報告します。

【オハイオ州立大学で Sue 先生の授業に参加】

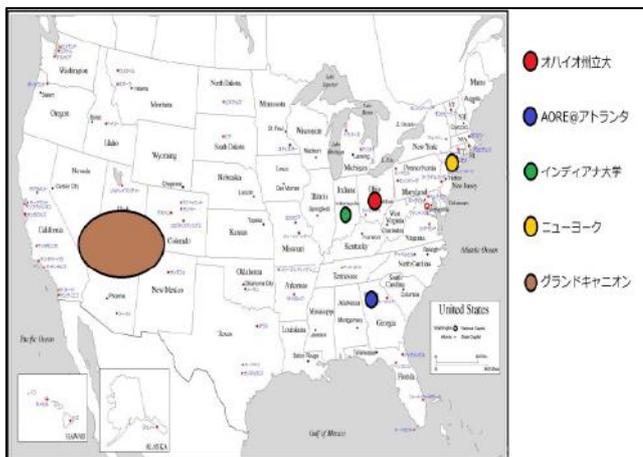
◆体育科教職授業

◆ABL(Adventure-Based Learning)授業

ASEのような室内で出来るアクティビティを2コマ(3時間)で5～6種行いました。学期前半は先生によるファシリテーション、後半は、学生達がチーム毎に週替わりで計画、準備、ファシリテーションをし、先生がそれにフィードバックを与える形式でした。単純に持ちネタが増えたのに加え、説明時の言葉の選び方、話すテンポなどにこだわって進めている様子を見て、経験則でやりがちな自分ですが、意図的に計画して話すことも大切だと感じました。

◆Social issueの授業

週毎に取り上げる社会問題トピックと教育を絡めたディスカッションが主な内容で、印象的だったトピックは人種、LGBTQI、宗教でした。初めはアメリカ



カッぽいな！という印象でしたが、話を聞くうち、今まで出会ったキャンパーに、そういった悩みを抱えていた子が居た可能性(本人だけでなく親や兄弟

が、も含め)があること、配慮に満ちた接し方が出来ていたと言いきれるのか?…ということに気づき、キャンパーとの関わりの視点(日本では気づきづらい部分)が広がりました。

《AORE (Association of Outdoor Recreation and Education) カンファレンス@アトランタ》

◆全体の様子

3日間で研究発表/実践報告/技術習得の講習/ディスカッション/野外グッズオークション/就職相談/野外関連会社のブースが並ぶ部屋で飲み会/…などのセッションが開催されていました。日本の学会に比べ、学生や実践家、企業の方が多く集まっている印象を受けました。特に印象に残ったのは「女性野外指導者のリーダーシップの在り方」のディスカッションでした。Marmot、Black Diamondなどのメーカー、NOLSやOBSなどの教育団体がブースを出しており、無料配布の記念品をたくさんゲットしてきました。

◆Student Networking Lunch ; Professional Staff Take a Student to Lunch

大学の先生や野外業界でプロとして活躍している方々が、学生をランチに連れて行って下さる全体企画がありました。私に声をかけて下さったのはGeorge Mason大学の女性教授で、他大学の女学生2人と一緒にランチをしました。全員が互いに初対面でしたが、どんな活動をしているのか、将来何がしたいのか、そんな話をし、連絡先を交換しました。

◆STUDENT&CAREER CENTER

一室に、野外関係の職員募集などの求人情報が山ほど掲示されていました。圧倒的な求人数で驚きました。

【インディアナ野外修行の旅】

◆Indiana 大学 Alan Ewert 先生訪問

かの有名な本“Outdoor Adventure Education”の著者であるAlan先生とお話してきました。ドクターコースのカリキュラム、学生指導のポリシーなどを聞いて、今まで考えてもいなかったドクターという選択肢について考えるきっかけになりました。



◆Bradford Woods 見学

野性の森と鳴沼を組み合わせたようなインディアナ大学のキャンプ場で、ASEエレメント、ハイエレメントなどのチームビルディングの為の施設、アーチェリー場、プール、バスケットボールコート、コテージ(常駐スタッフ用/訪問者用)などがあり、10,120,000㎡の陸地、445,200㎡の池、16kmのハイキングコースを含むほどの大きさ(筑波大学キャン

パスの約4倍)に圧倒されました。イケメン職員さんに案内して頂きましたが、ASE施設の充実度は、正直、野性の森も負けていないと思いました。アクティビティの種類はほぼ同じで、ウォールは1つだけでした。勝った…!!

◆CORE (Conservation and Outdoor Recreation / Education) Program オリエンテーション参加

インディアナ大学の授業の一つで、Leadership Development/Group and Self Management /Instructorship and Teaching /Environmental Stewardship/Outdoor Technical Skill Development and Certificationsなどの内容を取り扱うカリキュラムになっていました。専門的な印象の半面、実際の参加者は山に居そうな学生ばかりではなく、山に連れて行って大丈夫か!?という細くて小さい女性も居たことが驚きでした。

◆ACA (American Camp Association ; アメリカキャンプ協会) カンファレンス参加

アイスブレイキングのセッションなどに参加しました。歌う、踊る系のゲームが多く、周囲の参加者がすぐ音楽に反応して踊ることができるあたり、さすがアメリカだと思いました。そして偶然、アメリカキャンプ協会のCEO、Tom Holland氏と昼食を共にし、連絡先を交換してきました。「連絡します!」と言ったものの、何を連絡していいかわからず、未だに連絡できていません。

【OAHPERD (Ohio Association for Health, Physical Education, Recreation, and Dance) カンファレンス@オハイオ】

◆発表を経験

ABL実技発表グループの一員としてUFO(Helium Stick)をファシリテーションしました。3週間前から原稿を作成し、一緒に授業を受けていた学生仲間たちと毎週練習して臨みました。1回の指導の為に3週間前から準備したのは初めての経験でした。



【TOKYO-FROST VALLEY PARTNERSHIP YMCA スキーキャンプ@Frost Valley YMCA】

◆スタッフとして参加

NY在住の日本人の子ども対象のスキーキャンププログラムでした。強烈に感じたことは、身につけた技術や資格は国を超えても武器になる、ということです。突然上級班の主任を任せて頂いたりし、その場その場の行動で信頼を得ることも大切ですが、真剣にその活動に取り組んできた証である技術や資格によって、よりスピーディーに信頼をして貰うことが出来るのだと感じました。



グランドキャニオンも巡ってきたよ！

アメリカに滞在出来た時間は短かったですが、留学に向けて動いた2年間を含め、この帰国でひと段落つき、ホッとしています。帰国の日、「子どもの頃、夏のキャンプに参加して帰ってきた時、解散場所を感じていた気持ち」を思い出していました。親元を離れて一人で乗り込んだ先で、たくさんの冒険を乗り越え、たくさんの仲間ができた。その場を離れるのが寂しい気持ちと、自分でも少し成長したと感じる自分を親に見せるのが照れくさくて、「どうだった？」と聞かれても、複雑すぎてとりあえず「楽しかった」としか答えられない。あの時に似た心境。

次のステップは日本でどうするのか、です。たくさんの方の力を借りて実現したこの3か月の経験が無駄にしないように、これからも日本で頑張りたいと思います。

リレーコラム OB・OGからのメッセージ

内藤 勲さん (1998年度卒業) 合同会社シンプルワークス代表



こんにちは、98年度卒業の内藤勲（キャンプネーム「うなぎいぬ」）です。

私は大学卒業後、スキーのインストラクターを14年続けておりましたが、現在はインターネットを使った主に個人起業家向けのサービスやセミナーなどを開催しております。スキーのインストラクター時代もずっと名残で「ウナちゃん」として呼ばれ続けておりました（笑）

長らくスキー以外の野外の活動やイベントは、遠く離れておりましたが、昨年冬に同期の国立淡路青少年交流の家の蓬田高正さん（でっば）にAWAJIミーティングのゲストスピーカーとして呼んでいただきました。AWAJIミーティングでは、野外での活動ではなかったものの、野外関係の方々と久々に触れあうことができ、なんだか懐かしい気持ちになりました。冒険プログラムの「作り方」、「広め方」、「深め方」というテーマがありましたが、私はインターネットを使った「広め方」について登壇させていただきました。

私は在学中、研究室で学んだことを一言で言うならば、「自然を通した人間関係作り」です。コミュニケーションや、教育、子供たちの挑戦と成長など、どれも人が絡みます。AWAJIミーティングで多くの方とお話させていただくなかで、その「自然を通した人間関係作り」を思い返しました。思えばスキーのレッスンでも、現在のセミナー講師でもコミュニケーションや、個々の力を引き延ばすなど、在学中に身につけたことが根底にあって、役立っているなど感じています。例え、野外での仕事ではなくても、リンクする部分が非常に多いです。

最後になりますが、在学中の学生の皆さんには、「野外運動研究室で得たものは何か？」、「一言で言い表すなら何か？」と問いかけてみて欲しいと思います。きっと卒業後、社会に出たときに、その「一言」が取り組んでいることに通じているはずですよ。

～編集後記～

卒業シーズンということもあり、4年間を共に過ごした体育専門学群の同期たちがつくばを去っていきます。体育専門学群の学生の進路は、教員・一般就職・大学院進学が3分の1ずつと言われることが多いですが、それぞれの道を自分で選び、自分の力でこれから人生を歩んでいかなければいけないということを強く感じた季節となりました。私を含むUGの3人の同期も無事に、消防士、社会人野球選手、大学院生とそれぞれの道に進みます。立場は違いますが、野外研で学んだこと大切に頑張っていきます。 吉沢 直 (UG4)